



SGS News Letter

第 8 号

発行日 2013年3月1日



学部長 安田 震一
(ヤスダ シンイチ)
William Shang
(ウイリアム シヤング)

学部長あいさつ

「卒業おめでとうございますー新たな挑戦へー」

SGS News Letter 第8号をお届けします。

来る3月20日(水・祝)に卒業式が挙行される。学生の皆さんは、4年間在籍した「学び舎」を巣立っていく式典である。どことなく厳かな、かつ寂しさを感じる式典でもある。一方、アメリカでは学位授与式をCommencementという。この言葉は「始まり」、「開始」などを意味する。その他に「学位授与式」というときでも使われている。しかし、ものごとのスタートだと解釈することが多い。言い換えれば、新たな挑戦への旅立ちである。一般的には、学位授与式の会場では、エドワード・エルガーのPomp and Circumstance(威風堂々)と共に入場し、曲に合わせて所定の位置まで進み、着席する。その時考えることは、誰でも同じであろう。次の居場所は、どんな感じかな～。大丈夫かな～。良い友達はずぐにできるかな～と、喜び、そして緊張や不安と様々な感情が湧き上がってくることであろう。

SGS 3期生も同じであろう。それぞれがSGSに入学した時に経験したオリエンテーション週間、TOEICの試験、新学期の始まり、AEP教員との初対面、サークル活動、中間試験、期末試験、夏休み、そして秋学期のころにはある程度学習のパターンを熟知し、少々のんびりできる時期、ここぞという時には徹夜で学習、友人とネットワーク作り、また協調性を養う、短期・長期留学での貴重な経験、最後になり単位は・・・などアツと言う間にこの4年間が過ぎたことであろう。卒業と共にSGSに対する思いはそれぞれ違いうだろうが、SGSで培った人生ノウハウ、経験、それらすべてを社会で自分の長所として活用し、社会で成功して欲しいと教職員一同は願っている。

3月末は「お別れ」、その2週間後は新天地での「出会い」が待っている。今こそ、夢を追いながら期待が膨らむ時期でもある。私が受けたアメリカの教育システムでは、学位授与式は5月末か6月初めに挙行される。就職は卒業後、好きな日取りを選んで仕事を始める。よって、日本で味わうような切り替えはない。

SGSを去りゆく卒業生、ここに残る我々教職員や地域社会、三位一体で共通していることは、ここは皆さんにとっての第二の故郷であり、我々教職員はファミリーでもある。いつでも必要なときに戻り、先生方と相談できる場所である。たまには近況報告を聞けることを期待している。これからの日本を支える卒業生の皆さんが作ってくれた4年間の思い出に感謝するとともに、国内外での貢献と活躍を期待している。皆さんのお陰でSGSの歴史に新たなページが刻まれることになるであろう。

Congratulations on your graduation. May you live a proud life.



今後のスケジュール

- 3月20日(水・祝) 卒業式
- 4月1日(月)～4月6日(土) オリエンテーション
- 4月4日(木) 入学式
- 4月8日(月) 春学期 授業開始
- 4月15日(月)～4月19日(金) 春学期 履修科目登録期間
- 4月26日(金)～5月9日(木) 春学期 履修科目確認期間
- 4月30日(火)・5月1・2日(水・木) 特別研修日
- 7月29日(月) 春学期 授業終了
- 7月30日(火)～8月3日(土) 春学期 期末試験期間
- 8月5日(月) 夏季休業期間 開始

発行責任者:
学部長 安田 震一

多摩大学
グローバルスタディーズ学部

〒252-0805
神奈川県藤沢市円行
802番地
Tel:0466-82-4141

学生 学生会企画 秋～冬イベント 開催

“SGS Winter Music Fes 2012”

2年目を迎えた音楽祭を12月7日（金）体育館にて開催しました。この音楽祭では、吹奏楽サークルや軽音サークルの活動とは異なり、個人にスポットを当て、音楽を趣味としている学生の発表の場を提供することを主旨としており、落ち着いた音楽を基調として演奏者を公募いたしました。今回は、料理サークルによる手作りのお菓子を食べながらより優雅に演奏を楽しんでもらいました。



演奏者は19名が参加。留学生や職員も得意な楽器を披露しました。また、スペシャルゲスト

として文教大学のアカペラサークルを招いて交流を深めました。演奏者・スタッフ・観覧者を含め81名が参加。学園祭を除くイベントとしては最大の動員数でしたが、内容については課題を多く残しています。将来的には、後援会の皆様や地域の方を招待できるまで育てたいと昨年もお伝えしましたが、そのレベルには少し時間がかかるように思います。翌日8日（土）には、湘南工科大学で音楽祭があり、学生会のメンバーが運営方法を学ぶことができました。音楽を通じ隣の大学と学生間交流が進むことは、学生生活においてよい刺激となります。

文教大学、湘南工科大学との交流のほか、2013年は日本大学生物資源科学部の学生とのワールドカフェの開催（仮題：地域貢献として何が出来るか）や、横浜市立大学、専修大学と防犯パトロールを通じて学生ボランティア交流を行う予定です。



“Winter Holiday Party”

12月21日（金）に“Winter Holiday Party”を開催しました。今年で2回目となるクリスマスパーティーです。



Present Hunter（宝さがしゲーム）では、教員並びに事務の各セクションから景品を用意するなど、教職員も参加して学生との交流を深めました。



スキー・スノーボードツアー

新規企画として、2月8日（金）～11日（祝）に北志賀小丸山スキー場へ行ってきました。このイベントは昨年度も開催を試みましたが、学生の企画運営力不足から、学生委員会で承認が得られず、“お蔵入り”した経緯がありました。その反省を踏まえ昨年秋から3年生が1年生に指導しながら準備を進め、一定の改善があったと学生委員会で判断しました。特に、①学生全体への事前説明会並びに参加者への説明会を実施した、②初心者のための講習会をツアーに組み入れた、③スキーツアーを専門とする旅行会社からのプランニングや保険アドバイスを参考に進めた、④学生委員会で報告や学生課との打ち合わせを綿密に行えたなど、社会に出れば当たり前なことですが、日々学習しながら企画したことを評価しました。



最終参加者数は23名。学生委員会内でも個人旅行ではなく、学生会主催の企画であることから、教職員の引率について議論を重ねましたが、日頃からイベント指導をしっかり受けている学生会のメンバーが多数参加すること、また本学では、3.11以降、緊急対応の強化を図っていることから、学生のみで実施させました。2泊4日と、若干ハードにも感じていましたが、全員が満喫してきました。

最終日には、参加者全員による意見交換会（反省会）をスキー場で行うなど、次年度の準備を始めました。参加者増を目指すとともに、現地で全員がひとつになってできることがないかを検討課題としました。



国際交流 交換留学生送別会 & 春期留学プログラム出発

1月22日(火)、9月よりSGSで学んでいた5名の交換留学生(ドイツ2名、シンガポール2名、オーストラリア1名)の送別会を兼ねた餅つきパーティーを行いました。当日は、藤沢市の地域活動団体『こめこめクラブ』の皆様大変お世話になりました。



また、恒例となりましたSGS茶道部によるお茶会を着物で体験し、初めて見る自分の着物姿や抹茶の苦味を楽しみました。



春休みには22名が短期留学へ、5名が交換留学に出発しています。慣れない土地で初めて会うホストファミリーやクラスメートと過ごすことはとてもエネルギーが要りますが、全員が無事に留学生活をやり遂げて帰国することを願っています。

夏休みの留学プログラム説明会は、4月16日(火)・19日(金)ランチタイムを予定していますので是非ご参加ください。※ 来年度から短期奨学金(10万円)申込の条件が緩和されます。

また、交換留学提携大学として、新規にマレーシアのTaylor's Universityと交渉中で、早ければ夏休みのプログラムから実施となります。

多摩大学フットサル部



フットサル日本代表監督ミゲル・ロドリゴ氏が多摩大学にて講演と実技指導

2012年5月創設のフットサル部が、日々練習に励み着実にその実をつけてきました。9月6日(木)には、多摩キャンパスにて、フットサル日本代表監督のミゲル・ロドリゴ氏による講演会が行われました。

スペイン出身のミゲル監督は通訳との二人三脚で、スペインやブラジルの子どもたちはフットサルを通してサッカーの基本的な技術を習得することや、成長してからサッカーとフットサルに進む道が分かれ、両者は全く別の種目として成り立っていること、そしてフットサルは、瞬時の判断とすばやい動作のための高度な技術が要求されるスポーツであることを熱意を込めて語りかけました。ミゲル監督が用意した一流のフットサル選手が活躍する試合の動画が始まると、まさにそのことが納得できました。講演の最後では、将来日本のフットサル人口が増えることを期待して日本の現在のフットサルチームにエールを送りました。

講演後は多摩キャンパスのアリーナでフットサルの実技指導が行われ、多摩大学フットサル部の選手たちは懸命にミゲル監督の指導を受け止めている様子でした。

フットサル部東京都大学2部リーグ結果:

第1節	8月26日(日)	多摩大学VS 法政大学サルケル部	3-2で勝利
第5節	9月23日(日)	多摩大学VS SokaFuts(創価大学)	7-2で勝利
第7節	10月14日(日)	多摩大学VS Vanfleet(和光大学)	3-1で勝利
第11節	12月23日(日)	多摩大学VS SA Jugaria(明治学院大学)	3-4で敗退
第15節	2月17日(日)	多摩大学VS LIBERIA(国士館大学)	5-3で勝利
第16節	2月20日(水)	多摩大学VS SevenStars(東京農工大学)	8-1で勝利



キャリア 内定状況

本学部では未内定学生の個別指導を強化し、本学部4年生（2013年3月卒）の2月20日現在の内定率は約80%です。今年度は、例年に比べ、中堅企業を中心に求人が豊富です。また、学生も着実に就職活動を続けていますので、さらに個別指導を徹底することにより、年度末までには、ほとんどの学生が適職を探すことができると思われます。（主な内定先は別表1参照）

3年生は、12月から就職活動を開始しました。年が明けてからの企業の採用活動が昨年より早いのが特徴です。2月の大学での学内企業説明会には、昨年より多くの学生が参加し、既に、多くの学生がエントリーシート



別表1

2013年2月20日現在（重複内定含む）

主な内定先	
旅行・観光・イベント	カタール航空、羽田空港サービス、エイチアイエス、富士屋ホテル、国際ホテル、四季リゾート、共立メンテナンス、ケヨーリゾート、エアサーブ
商社	大塚商会、日立ハイテクマテリアルズ、ヴィックスコミュニケーション、ベンダーサービス、WIT'S CORPORATION
運輸・物流	上組、東港丸薬海運、神奈中バス、ANAケータリングサービス、国際自動車
食品	岩塚製菓、東海澱粉、鈴廣蒲鉾本店
外食・フードサービス	フォーシーズ、銀座久兵衛、テンスターズダイニング、ドリームダブルコミュニケーション、日本マクドナルドファールディング、ニュートン、日本食研、トリコロール、ワタミ
小売・流通	横浜日野自動車、横浜トヨペット、ケーユーホールディングス、セリア、トータス、オーケー、カメガヤ、コーナン商事、パルタック、エスアイ堂、九九プラス、生活協同組合コープネット事業連合
アパレル・衣料	ワールドストアパートナーズ、AOKI、リアライズワークス、ユニクロ、シティヒル
金融	富国生命保険、第一商品
機械、プラント	寺岡精工、ストラパック、日本ビソー、日本テクノロジーソリューション、シグナス
その他製造	ザ・パック、メイワボックス
情報・通信・メディア	ソニーミュージックエンターテインメント、NTT番号情報、デザイン、ビーコンインフォメーションテクノロジー、ジェノバ、ジェーアイビー、ティーガイヤ
サービス・コンサルタント	イーエムシー、バイオテック、リビエラ東京、MIDDLE MAN、テンプスタッフ、KERN COUNTRY CARE FACILITY、サニーテーブル、進和学園、キャリア、ヘルセ、オリエンタル工業、リラク、タブチ写真館、スタジオT&H、神奈川配せん人材紹介会社
教育	ECC、日本教育クリエイト、イツツイジャパン、東名自動車学校
住宅関連	積水ハウス、ケイアイスター不動産、ユミーネット、オンテックス
医療	やよい堂整骨院
リース	アシパックス



Imagine

もう四十年以上も前のこととなります。修士論文に添える副論文を書くために、英語の早期教育について資料を集めていたときのことで。まだ英語を中学に入る前に教えることは一般的でない時代でしたから、資料はあまりみつかりませんでした。ある私立大学の附属小学校で実践していらっしゃる先生がお書きになったものの一節はよく覚えています。残念ながら、いまではその本は紛失、私の論文のコピーは、年月を経て判読不可能になってしまいましたので、正確に引用することはできませんが、その内容はこんなことでした。

幼い子供たちに英語を教えることについては、いくつかの利点がありますが、同時にそれに負けない程多くの批判もあります。しかし、それにもかかわらず英語を教えるのは、幼い子供たちに、遠い世界に自分たちと同じような子供たちがいるのだということを実感する機会をできるだけ早い段階で持たせたいからなのです。例えば、

Rain, rain, go away
Come again another day
Little Johnny wants to play
Rain, rain, go away

というマザーグースの歌を教えるときその先生が大切に思うのは、遠いイギリスという国に男の子がいて、その子も雨が降ると外で遊べないので、雨が上がるのを待っているということ、子供たちが実感してくれることです。そうすることで、その子が遠い未知の国に思いを馳せ、遠い国の子供を思いやることができるようになるということなのです。

この一節に力を得てなんとか英語教育に関する小論文をまとめた私は、その後アメリカ文学を中心に研究するようになりましたので、英語の早期教育についての研究は、それきりになってしまいました。けれども、文学の研究をしたり、文学作品の翻訳をしたりするとき、いつもその推進力になっていたのは、この時の「遠い国の子供を思いやる心」だったように思います。

遠い国の存在に気づくこと、そしてそこには雨が止むのを待っている子供がいて、その子にも大切な両親や兄弟姉妹がいて、大切なおもちゃや本があり、大好きな友達がいるということに気づくこと、そしてさらには、その子は自分と同じように、ときどきは風邪を引いて注射をされたり、虫歯のために歯医者さんに連れて行かれて泣いたりもするだろうか、あるいは自分とは少し違うところがあるかもしれない、だとしたらどこが違うのだろうか、それはどうしてだろうと考えること、一言で言えば、想像すること、私が「地球社会とアメリカ」「個人史による自己開発」「翻訳入門」の授業を通して、一番伝えたかったことでした。想像力は私たちを遠い国の子供と結び付けてくれるだけではありません。私たちは常に自分とは違う人々と関わって暮らしています。よく培われた想像力は私たちを自分とは違う人々とのやさしい関係を可能にしてくれます。

Etsuko Sugiura

定年退職：杉浦悦子先生

